

経営と健康

鎌倉の救済人・忍性

講談師 一龍齋貞花

物事は、立場によって見方に違いがあります。

ロシアのウクライナ侵攻も、ロシア寄りの国は評価。そうでない人、多くの国々は批判。宗教ロシア正教も立場によって対応が違ってきます。

振り返ってみますと日本も戦時中は、戦争反対と言おうものならば、忽ち憲兵に引つ立てられ、大本営発表のフェイクニュースに大喜びしたものでした。

鎌倉の救済人良観？ 誰？という方も少なくないと思います。極楽寺忍性といえど存知の方も多いいと思います。

渋沢栄一さんは、「実業家は、社会に貢献しなければいけない」と、言われました。

どんなに稼いでも、全く社会奉仕をしない人少なくありません。

この忍性も、立場によって見方が二分される僧侶です。

鎌倉幕府二代の執権北条義時の三男重時は、広大な極楽寺を建立し、奈良東大寺叡尊の弟子真言律宗の良観房忍性を開山に迎えます。

鎌倉の御家人たちは、平家と戦い多くの敵を倒した。こうした人を殺めた自分を救ってくれるのは仏であると、死後自分の入るお寺を建てています。

江ノ電に、極楽寺という駅があり、山門の横に大きな薬研が置かれています。貧しい病人に薬を作り与えた薬研です。

広い境内には、難民があふれ僧侶が柄杓で粥を汲み施していた。

「有り難や、有り難や」と涙を流して受け取ります。

現在も生活困窮者に各地で食べ物が奉仕されています。

療病院があり、幾人もの僧侶がマスクをして患者を診療し、小僧が看護に当たっています。

忍性は、ハンセン病患者を雨の日も、風の日も背負って市中の医者へ連れていき、おぶって帰ってくる。慈悲深い菩薩と仰がれていました。

一方、広い敷地内に立ち入り禁止のお堂があり、中では数十人の僧がそばをばはじき、多くの僧が銅銭を紐で通しまとめていた。部屋には豪華な反物が積み上げてありました。

慈善活動と共に商いを行い、経済基盤が安定しなければ慈善は出来ません。

宗教施設であると共に、商社の機能を有していた。

念仏僧住阿弥陀が、

「和賀江に船着場を築いては如何でございますでしょうか」

「それはよいところに気付いた」
三代の執権北条泰時は喜んで許可し、和賀江島に港を築き、維持管理を忍性の極楽寺に任せます。

極楽寺は、維持管理の代償として通行税を取る権利を得て、港に着いた船から関所米として米を得る。前の海は殺生禁断の浜として一般の漁を禁じ、但し一定の金品を寺に寄付した者には漁の権利を与える。漁師に対する統括権まで握り莫大な収入を得ます。

ある一日、極楽寺良観は寺の開基である大檀越、幕府の実力者北条重時を招きます。

この重時は、六波羅探題を務めておりましたが、名君といわれる北条時頼の命で鎌倉へ戻り、「重時家訓」は公家家

訓の形態を初めて武家社会に取り入れ、武士の在り方を説いたもので、後世に大きな影響を与えました。

「上に立つ者は、昼日中酒を飲んで赤い顔をして大道を歩いてはいけません。日の暮れを待つか、牛車に乗って帰れ」など有り方を説いています。

鎌倉武士は、京都の公家と違い質素な食事をしてきたが、豪華な食事でもてなします。重時の家来も良観の弟子も盃を重ねます。

立派な衣の良観房忍性が、
「重時様、お陰様で病人や貧者を世話することが出来お礼申し上げます」

「和尚を援助するのは幕府のため。身寄りのない者や、病人を救済すれば治安維持も図れる。我等にとっても好都合、和尚にとつてもこう」

「恐れ多いことでございます。私はこのようなにぎやかな場所はさせて、山中の静かな寺で戒律を守らなければいけないのです」

「何を今更、良観和尚といえは今や御家人でさえも恐れはばかるお人じゃ。まして今の日本国は飢饉、疫病で弱り切つておる。鎌倉の誰もが上人の威徳を頼つておりますぞ」

「しかし皆が皆というわけには参りません。この良観を悪人と呼ぶ者もいるよ

うでございます」

「なにっ、それは何者じゃ」

「たしか日蓮と名乗る僧で、松葉が谷に住んでおります」

「その者はなんと申しておる」

「念仏を唱える者は地獄に落ちると申しております」

「ナニッ」

念仏信者重時、怒りを表したが、

「心配召されるな、どこの世界にも人をねたむ者はおるもの。ご安心下され、この重時はもとより幕府の面々がついておりますぞ。ハッハハ…」

「有難いお言葉でございます」

「お師匠様、そろそろお時間でございます」

部屋に戻ると弟子が良観の立派な衣を脱がせ、質素な法衣に着替えさせ本堂へ。数百人の参詣者が本堂を埋め尽し今か今かと待つております。

良観を先頭に十数人の弟子が入堂するや、

「良観様」「良観様」

女たちは涙を流し、男たちは「良観様……」と手を合わせています。

重時は、鎌倉庶民の良観にに対する熱狂ぶりに感嘆。

「ようこそそのご参詣、皆の衆お達者で

なによりと存じます」

「有難うございます。鎌倉の誰もがお上人をお慕いしております」

「良観様のお陰で道は広くなり、港は整備され、今迄より一層住み易くなりました」

「そう持ち上げんでよろしい」

堂内の人々から笑いが起つた。

すると一人の僧が立ち上がり、

「あのような普請は大変でございますりましよう。銭の入り用は苦勞のいること。聞けば庶民の米を取り上げ山の材木を買い占めて高く売る。そうしなければあのような事業は困難でございますりましよう。誠の僧侶であるならば仏教の奥義を極め、人々の成仏を示すのが本当の僧侶というもの」

声を上げたのは幕府に反抗する日蓮の弟子でした。

極楽寺の僧が、声を上げた僧を取り囲み本堂から連れ出した。

「そんな金儲けをなされておるのか」

「イヤ、困つてる人を助けるには金がある」

「そうじゃ、懐を肥すのではなく、わし等をお救い下さる有難いお上人じゃ」

庶民のため困っている人を助けるため金を稼いでいるのか、

それとも難民救済を隠れ蓑に、その実贅沢な暮らしをしているのか。良観を悪者に追求する本も出されているが、その業績は、実に素晴らしい。

良観房忍性の業績

草創した伽藍83ヶ寺（称名寺他）

極楽寺には、病療院、身寄りのない者や年寄りを収容する悲田院、福田院、癩宿を設け、こうした貧者、乞食、ハンセン病患者を救おうとして、ハンセン病患者に与えた服3万3千着、架橋した橋189、修築した道71ヶ所、掘つた井戸33ヶ所、鎌倉雪ノ下で非人3千人救済。

大仏の高徳寺の別当（責任者）を務め、幕府の支援を受け鎌倉桑ヶ谷の病院に20年間4万6800人を治療したといえます。

渋沢栄一は、東京市養育園を運営し多くの人を救済したが、それにも劣らぬインフラの整備も。

後醍醐天皇より「忍性菩薩」の諡号（おくりな）を勅許される。

2016年、「忍性・NINSHO」と映画化されたが、残念ながら一般に余り評価されていません。

素晴らしい弱者救済、鎌倉の救済人としてご紹介しました。